

ふたば未来学園「未来創造探究」 福祉に関するオンライン講義

2月10日（水）に福島県立ふたば未来学園高等学校（福島県双葉郡広野町中央台1-6-3、柳沼英樹校長）の2年生「健康と福祉探究ゼミ」（二丹美恵教諭）で、運動生態学研究室の江川賢一教授による「幼児期・学童期の健康や高齢期の健康について」をテーマとしたオンライン講義を実施しました。

このゼミでは、高校生自ら解決すべき課題を見つけ、解決の糸口を探求し、実際に課題解決を試みています。2020（令和2）年度のゼミに参加している高校生は、「子どものロコモティブシンドローム」が増えていることに注目して、小学校の出前授業を計画したり、「高齢者が元気で長生き」するために高校生できることは何か？という問題意識から、デイサービスや在宅高齢者向けのイベント等を計画しています。

授業では、運動生態学研究室の研究テーマを中心に、幼児の健康づくりには保護者や家族と一緒に食事をとったり運動遊びすること、学童は体力が優れている子とそうではない子に分かれていること、高齢者はひとりで運動やスポーツをするのが好きな人もいるが、家族や友人と誘い合っって一緒にウォーキングを続けている人が多いことグラフや写真を交えて解説しました。

90分のオンライン講義前半のレクチャーに続いて、ディスカッションの時間には「高齢者と一緒に何かできそう」「体を動かすだけでなく、お話ししたり、歌を歌ったり楽しみたい」「これからもっと詳しく調べて、子どもや高齢者の役に立ちたい」などの感想があり、高校生ならではの柔軟で自由な発想が印象的でした。ゼミ担当の二丹先生からは、「子どもから高齢者まで、豊富なデータをわかりやすく示されていてよかった。」との感想が寄せられました。

オンライン講義で、高校生の総合的な探求をサポート

みなさんの関心

- 🌐 子どもとロコモシンドローム
- 🌐 一人暮らしの高齢者に起こりやすい問題
- 🌐 高齢者の栄養と食事
- 🌐 高齢者の生きがい
- 🌐 高齢者のQOLを高めるために



リモートでディスカッション



”自分事”として課題を探求



復興に向けた「知」の継承・創造へ高校生が取り組む

東日本大震災・福島原発事故から10年が経過し、原子力災害からの地域社会再生への新たな復興の動きが加速しています。

2021年1月24日に「第7回ふくしま学（楽）会」が開催され、世代、地域、分野を超えた福島復興について取り組む場として、被災を記憶している最後の世代である高校生も参加しました。

この会を運営されている早稲田大学環境総合研究センター研究院准教授永井祐二先生の働きかけで、「福島の再生なくして日本の再生なし」という福島復興の原点を共有している専門家が参加しています。



第7回ふくしま学（楽）会には120人を超える参加

本講義では、三重県志摩市健康推進課の田中昌子さんの『元気づくりウォーキング』を通じた日常生活における運動定着の評価に関する研究（共同研究者：江川賢一）を紹介しました。要旨は日本公衆衛生学雑誌67(10) p.237に掲載されました。

プロジェクト概要

●テーマ

ふたば未来学園「未来創造探究」福祉に関するオンライン講義

●パートナー

早稲田大学環境総合研究センター・福島県立ふたば未来学園高等学校

●担当教員

江川 賢一 教授

●実施期間

2021年2月～継続

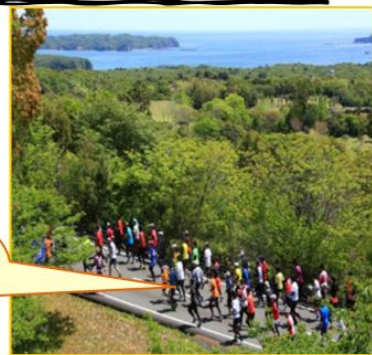
ウォーキング参加者は、週3回以上運動している

三重県志摩市『元気づくりウォーキング』を通じた日常生活における運動定着の評価



『身近な人に伝える』

- ・歩くことが楽になった！
- ・身体が軽くなった！
- ・1人より楽しい！



運動生態学研究室では、ふたば未来学園高等学校の総合学習支援を通じて「食」「運動」「健康」と「持続可能な社会」に関する調査研究を進めています。